

令和 8 年度

岩手大学 教職大学院

大学院教育学研究科

教職実践専攻(専門職学位課程)

Graduate School of Education,
Iwate University



力量ある教員を育む大学院

豊かな人間性・社会性を備えた

高度な専門性と



岩手大学
DX of Education

DX.E

教育実践学 × 情報学分野
高度専門人材養成プログラム

教育実践学と情報学分野を融合させた
高度専門人材養成プログラム

GUIDE BOOK 2026



国立大学法人

岩手大学
IWATE UNIVERSITY

スクールリーダーと 即戦力の新人教員を養成します

岩手大学大学院教育学研究科長 中村 好 則



岩手大学大学院教育学研究科(教職大学院)は、平成28年4月の発足以来、令和8年3月までに9期生14名を含む計144名の修了生を輩出してきました。修了生は、本学で培った「理論と実践の融合」に基づく高度な専門性を生かし、県内外の学校現場や教育行政の最前線で活躍しています。

現職院生は岩手県教育委員会から派遣され、2年間の大学院での学びを経て、修了後は学校の管理職やミドルリーダー、教育委員会の指導主事などとして、本県の教育を力強くけん引しています。また、学卒院生については、より高度な実践力を備えた新人教員として新しい学校づくりを担うことが期待されており、多くの修了生が県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校等で活躍しています。

本学教職大学院の大きな特色は、専攻共通科目を中心とした体系的な学修カリキュラムに加え、「専門実習」「教育実践リフレクション」「教職実践研究」を配置し、教育現場の課題解決に直結する実践的なフィールド研究を重視している点にあります。

さらに、令和8年度からは、文部科学省「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業」(令和6年度より受託)に基づく新カリキュラムがスタートし、数理・データサイエンス・AIを体系的に学べるようになりました。デジタル学習基盤を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実、教育実践におけるDXをはじめとする現代的課題、多様化する児童生徒の教育的ニーズに応えるため、教育実践学と情報学を融合した高度な専門知識と実践的指導力の育成を目指します。企業や学校現場との連携のもと、PBL形式の実習・演習を豊富に取り入れ、きめ細かな履修指導を行っていきます。

本学教職大学院は、岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、盛岡市内を中心とする各学校、関係機関、企業等との協働を一層深めながら、これからの学校教育の充実と発展に貢献できる高い力量を備えた教員の育成に努めてまいります。

専門的・実践的力量を備えた 教員養成を

岩手県教育委員会教育長 佐藤 一 男



今年度、県教育委員会から岩手大学教職大学院への派遣研修は11年目を迎えます。令和7年度の修了生(第9期生)14名を含め、これまでに140名以上の教員がそれぞれの勤務地において、学修の成果を大いに発揮しています。

第9期生の現職教員の皆さんも、この4月から副校長や主幹教諭、指導主事等として、新たなスタートを切っています。学卒院生の皆さんも、各地区の中核となる小中学校や県立学校等において、2年間の専門的な学びを生かし、意欲的に取り組んでいます。

県教育委員会が策定した「岩手県教育振興計画(2024~2028)」では、「学びの基盤づくり」を施策の一つとして位置づけ、具体的な取組として、教育への情熱と高い志を持つ有為な人材の確保・育成及び資質向上を掲げています。教員の専門性の向上を図るため、教職大学院との連携は欠かすことのできない重要な視点であり、教職大学院における理論と実践の融合を図った研究は、岩手の教育の充実に結びついていくものと確信しています。

県教育委員会では、高度な専門的・実践的力量を備えた教員の養成及び中核的・指導的な役割を果たすことができる管理職やミドルリーダー教員の資質能力の向上を図るため、引き続き、多様な人材の派遣に努めるとともに、実務家教員の人事交流や、専門実習等学修環境のサポートなど、教職大学院との一層の連携・協働を図って参ります。



教職大学院とは?

本学では「教育学研究科教職実践専攻」が教職大学院です。

教職大学院は、近年、学校教育の課題が多様化、複雑化する状況の中で、高い専門性と実践力を身に付けた高度専門職業人としての教員養成に特化した専門職大学院です。これまでの教育系大学院(修士課程)との違いは、専門実習、模擬授業、事例研究など実践的な教育内容が充実し、理論と実践を融合したカリキュラムとなっているところです。また、本学では独自に、高度な教育実践力と情報学を掛け合わせた資質・能力を備えた学校教員の育成を図ります。

- 教育学研究科(教職実践専攻)の入学定員
入学定員 16名(うち、岩手県教育委員会から派遣される現職教員は8名)
- 学位名称、標準修了年限等
標準修了年限は2年で、修了者には教職修士(専門職)の学位が授与されます。また、教育職員一種免許状の保持者には専修免許状が授与されます。

人材養成像

学校教育に関する「理論と実践の融合」の理想を掲げて、教職としての高度な専門的・実践的力量を備えた高度専門職業人としての教員を養成します。

具体的には、学校教育をリードする専門的力量を備えた管理職及びミドルリーダー教員を養成するとともに、新しい学校づくりの有力な担い手となる新人教員を養成します。



入学者受け入れ方針、学位授与方針、
教育課程編成・実施の方針(令和7年度時点)は、
こちらから



令和8年度から始まる新カリキュラム、
教育実践学×情報学分野 高度専門人材養成プログラムは、
こちらから

院生インタビュー



※プログラム名は令和7年度までのものです。

学校マネジメント力開発プログラム

現職院生 菅原 真



教職大学院では、学校を組織として捉え直し、マネジメントの視点から学校運営について考えています。学校経営計画や学びフェストについて見直すことで、これまでとは違う視点を得ることができ、自分の見方が広がりました。また、教職大学院では様々な校種の方、各分野の専門家である教授の方々、経験豊富な実務家の先生方から学んだり交流したりすることができ、そのことも自分の見識を広げることにつながっています。ここでの学びを岩手の子どもたちに還元できるよう、さらに学びを深めていきます。

学校マネジメント力開発プログラム

現職院生 嶋 正 壽



教職大学院での教育理論の学びを自身の実践と結びつけて振り返ることで、生徒との関わり方や学級経営を改めて見つめ直す機会を得ています。また、異校種・異年齢の仲間との対話や、学校経営を視野に入れたスクールリーダーとしての視点は、教育を多角的に捉える力を鍛えることにつながっています。明確な答えのない問いに向き合い、経験を持ち寄って議論する時間は、学びの豊かさを実感する瞬間です。ここで得た知見を現場に還元できるよう、研究と修養に努めていきます。

授業力開発プログラム

現職院生 佐々木 沙 織

教職大学院では、これまで感覚的に積み重ねてきた実践を理論に照らして省察し、自らの教育観を問い直しています。その中で出会った「子どもの行為や活動の中に意味を見出そうとしなければ、学びの姿は見えてこない」という視点は、授業の見方を大きく変えるものでした。同じ子どもの姿でも、立場や専門性が異なれば捉え方も変わります。その違いを仲間と語り合う時間は、大きな刺激となっています。大学院での学びをもとに、子どもたちが生き生きと学ぶ授業づくりを追究していきたいと考えています。



授業力開発プログラム

現職院生 菊池 雄一郎

学校教育で求められる専門性と実践力を高めるため、「理論と実践の往還」を軸に日々研鑽を積んでおります。専門的な指導をしてくださる先生方のもと、校種や教科の枠を越えて議論を重ね、多様な視点から見方・考え方を深められることも本研究科の大きな魅力です。また、これまでの学校現場での経験を省察的に捉え直し、自己の指導観や実践を再構築する機会にも恵まれています。子どもたちの学びに確かな価値をもたらすものとなるよう、今後も真摯に探究を続けていきます。



授業力開発プログラム

学卒院生 杉山 夢 香



教職大学院では、実習と講義を行き来しながら学べる環境があり、異校種実習や心理授業など、多様な視点から教育を捉えることができます。現職院生や異校種の院生との対話に加え、学会参加や授業外での対話などの自主的な活動も活発で、様々な角度から学びを深められる点が魅力だと感じています。最終年度となる本年度は、現場で働くことを意識しつつ、今この環境だからこそ向き合える問いを大切に、自分なりの考えを形にしていきたいです。

授業力開発プログラム

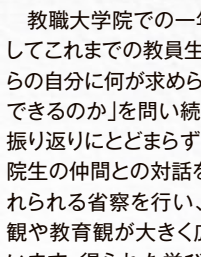
学卒院生 原 颯 馬



教職大学院での生活は、異なる教科や校種の院生同士が学び合うことで、専門的で実践的な学びを深め、教育者として成長できる貴重な機会となっています。現職の先生方からは、現場での豊富な経験を直接学ぶことができ、実習や授業で生じた疑問についても丁寧に教えていただいています。また、学卒院生同士でもそれぞれの実践を省察しながら学びを共有し、互いに意見を交わすことで理解や知見を深めています。今年度も、院生同士でさらに協力し合い、互いに高め合いながら、教育者としてより一層成長していきたいと思っています。

特別支援教育力開発プログラム

現職院生 佐藤 光 一

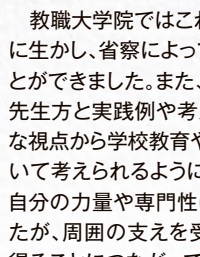


教職大学院での一年間は、授業や実習を通してこれまでの教員生活を見つめ直し「これからの自分に何が求められるのか」、「自分に何ができるのか」を問い続けた時間でした。単なる振り返りにとどまらず、異校種、異世代の大学院生の仲間との対話を通して多様な視点に触れられる省察を行い、現職教員としての指導観や教育観が大きく広がったことを実感しています。得られた学びを今後の実践へとつなげ、岩手の子どもたちの成長を支えられるよう、これからも研鑽を重ねていきます。



特別支援教育力開発プログラム

学卒院生 千葉 暖 斗



教職大学院ではこれまで学んだ理論を実践に生かし、省察によって新たな気づきを得ることができました。また、異校種の院生の方々や先生方と実践例や考えを共有する中で、多様な視点から学校教育や児童生徒への支援について考えられるようになりました。入学当初は自分の力量や専門性に自信がありませんでしたが、周囲の支えを受けながら徐々に自信を得ることにつながっています。今年度も実践研究をはじめ、さまざまな挑戦を通して学びをさらに深めていきたいと思っています。



≫ カリキュラムについて

≫ 3つのプログラム制



岩手大学
DX of Education
DX.E
教育実践学 × 情報学分野
高度専門人材養成プログラム

令和8年度からスタートしています！

DX of Education [DX.E] 教育実践学×情報学分野 高度専門人材養成プログラム

これまでのプログラムをアップデートし、MDAの基礎的知識と技能を備え、AIやビッグデータを活用した「令和の日本型学校教育」を構築できる教員の養成を目指します。

1 学校マネジメント力開発・DX.Eプログラム (現職院生のみ対象)

学校経営と組織マネジメントに関する高度な専門的力量的の修得により、特色ある学校づくりをリードする人材(校長、副校長、主幹教諭及び指導主事等)を育成する。

2 授業力開発・DX.Eプログラム

子どもの生活上・発達上の諸課題の把握とその適切な支援の見通しのもとに、子どもに確かな学力を形成し、地域における授業改善のリーダーとしての役割を果たすことができる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。

3 特別支援教育力開発・DX.Eプログラム

特別支援学校及び通常学校における特別支援教育を推進できる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。

専攻共通科目(必修)

- 特色あるカリキュラムづくりの理論と実際
- 学習指導要領とカリキュラム開発
- ICTを活用した授業づくりの理論と実践
- 教育データ活用による教科指導と評価
- 教育データサイエンス実践演習
- 心理教育的援助サービスの理論と実践
- 通常学級における特別支援教育の実践と課題
- 学校経営・学級経営の実践と課題
- いわての復興教育の実践と課題
- 学校におけるAI活用とDX実践演習
- 専門職としての教員の在り方とその力量形成

実習科目(必修)

学卒院生は、学部段階の基礎的・基本的な教育実習を踏まえ、現職院生は、教職経験を踏まえ、教科等の学習指導、生徒指導や学級・学校経営に関する高度で実践的な指導力の育成を目的とし、連携協力校、教育委員会、総合教育センター等で実習を行います。

プログラム共通科目[MDA教育科目群]

- 教育のデータリテラシー
- データサイエンスを活用した教育実践研究基礎論
- 情報通信技術を活用した小規模学校教育
- 教育行政におけるデータベース活用
- 学校教育と情報倫理・情報モラル教育
- 学校における情報セキュリティ
- プログラミング教育の実践と課題

プログラム共通科目[子ども支援教育科目群]

- 学校カウンセリングの理論と実践
- 子ども支援のための学校臨床心理学
- 発達援助の理論と実践
- 学校カウンセリングの技法
- 学習支援のための教育心理学

学校マネジメント力開発・DX.Eプログラム

- 学校マネジメントの理論と実践
- 学校トラブル処理の実践演習
- 学校評価の取組と学校改善の実践演習 等

授業力開発・DX.Eプログラム

- 国語科教育の実勢と課題
- 算数・数学科教育の実践と課題
- 道徳教育の実践と課題 等

特別支援教育力開発・DX.Eプログラム

- 特別支援教育の実践と課題
- 特別支援教育授業論A・B・C
- 特別支援心理教育アセスメント 等

リフレクション科目(必修)

理論的な学びと、実践的な学びを往還させながら、院生が自らの学びや成長に価値を見出す省察を行い、教育課題の解決に資する実践的力量的を高めます。

教育実践研究科目(必修)

院生個人が学校現場に貢献する教育実践のテーマを定め、その実践を理論的に検討し、教育実践研究報告書としてまとめます。なお、この成果は、教育実践研究中間発表会並びに修了前の発表会等で発表します。

履修特典

DX of Education [DX.E] 教育実践学×情報学分野高度専門人材養成プログラム

修了証書の授与

岩手大学大学院教育学研究科独自の修了証書が授与されます

専修免許状への記載

本プログラム関連科目を12単位以上履修した場合、専修免許状に「情報教育」と記載されます

オープンバッジの授与

本プログラム関連科目をすべて履修した場合、オープンバッジが授与されます



時間割例(授業力開発・DX・Eプログラム選択 学卒院生の場合)

専攻共通科目 選択科目 実習科目 リフレクション科目 教育実践研究科目

[1年次前期] 学修導入期・研究課題設定期

曜日	1	2	3	4
月	学習支援のための教育心理学	○データサイエンス実践演習		特色あるカリキュラムづくりの理論と実践
火	専門職としての教員の在り方とその力量形成	算数・数学科教育の実践と課題		○データサイエンスを活用した教育実践研究基礎論
水	いわての復興教育の実践と課題		○学校におけるAI活用とDX実践演習	心理教育的援助サービスの理論と実践
木	専門実習(授業力・子ども支援力開発実習)			
金	教育実践リフレクションI		教育実践研究	

○は、MDA教育科目群

[1年次後期] 学修展開期・研究課題探究期

曜日	1	2	3	4
月	通常学級における特別支援教育の実践と課題	○ICTを活用した授業づくりの理論と実践		○教育データ利活用による教科指導と評価
火	学習指導要領とカリキュラム開発			
水	学校経営・学級経営の実感と課題			
木	専門実習(授業力・子ども支援力開発実習)			
金	教育実践リフレクションII		教育実践研究	

○は、MDA教育科目群

[2年次前期] 学修深化期・研究課題深化期

曜日	1	2	3	4
月	○教育のデータリテラシー			
火		学校カウンセリングの理論と実際		
水				
木	専門実習(授業力・子ども支援力開発実習)			
金		教育実践リフレクションIII	教育実践研究	

○は、MDA教育科目群

[2年次後期] 学修完結期・研究課題総括期

曜日	1	2	3	4
月				
火				
水				
木	専門実習(授業力・子ども支援力開発実習)			
金		教育実践リフレクションIV	教育実践研究	

履修の工夫によって、授業を4期に分散することもできます。

履修の工夫によって、教育実践研究を含む自己の課題解決のために実習校に出向くなどの時間を確保することができます。

岩手大学教職大学院 修了要件単位表	専攻共通科目 (必修)	選択科目	実習科目 (必修)	リフレクション科目 (必修)	実践研究科目 (必修)	計
	20	8	10	4	4	46

● 選択したプログラムと、履修する実習科目の対応

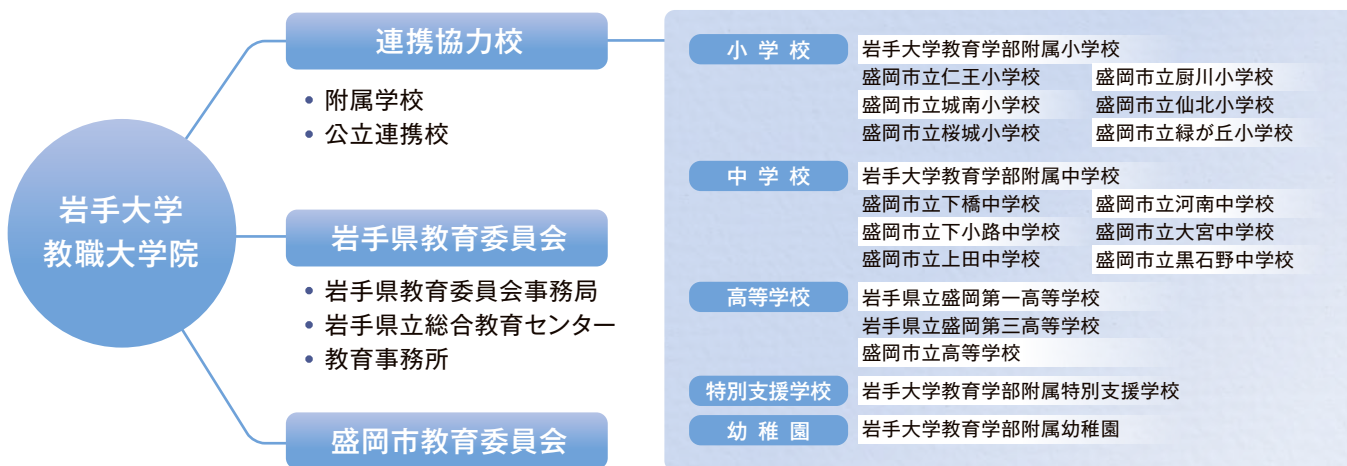
プログラム	現職・学卒の別	履修する実習科目			
		学校マネジメント力 開発実習	授業力 開発実習	子ども支援力 開発実習	特別支援教育力 開発実習A/B
学校マネジメント力開発・DX.Eプログラム	現職院生	○	○	○	
授業力開発・DX.Eプログラム	現職院生	○	○	○	
	学卒院生		○	○	
特別支援教育力開発・DX.Eプログラム	現職院生	○			○(B)
	学卒院生				○(A)

履修スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学卒院生の場合	専攻共通科目				2年次 教育実践研究 中間発表会	専攻共通科目				2年次 教育実践研究 発表会	プログラム別選択科目	
	プログラム別選択科目					プログラム別選択科目					実習科目(授業力・子ども支援力/特別支援教育力)	
	実習科目(授業力・子ども支援力/特別支援教育力)					実習科目(授業力・子ども支援力/特別支援教育力)					リフレクション科目	
	リフレクション科目					リフレクション科目					教育実践研究科目	
	教育実践研究科目					教育実践研究科目						
現職院生の場合	専攻共通科目				2年次 教育実践研究 中間発表会	専攻共通科目				2年次 教育実践研究 発表会	プログラム別選択科目	
	プログラム別選択科目					プログラム別選択科目					実習科目(学校マネジメント力・授業力・子ども支援力/特別支援教育力)	
	実習科目(学校マネジメント力・授業力・子ども支援力/特別支援教育力)					実習科目(学校マネジメント力・授業力・子ども支援力/特別支援教育力)					リフレクション科目	
	リフレクション科目					リフレクション科目					教育実践研究科目	
	教育実践研究科目					教育実践研究科目						

* 時間割や履修スケジュール等については、変更されることがあります。

≫ 専門実習について



Q 学校マネジメント力開発実習では、
どんなことをするの？

A 学校経営や教育行政にかかわる実際的な業務内容を実習します。学卒院生は、連携協力校での校務分掌を実習内容に含みます。現職院生は、教育委員会や教育センターでの事務局業務や研修の運営業務などを実習内容に含みます。



Q 授業力・子ども支援力開発実習では、
どんなことをするの？

A 授業づくりを実習します。単元計画の立案、実践、評価を行う中で、子どもの生活上・発達上の実態に配慮しつつ、有効な指導方法を開発、検証します。



Q 特別支援教育力開発実習では、
どんなことをするの？



A 特別支援学校における授業づくりはもちろんのこと、教科指導以外の教育活動、通常学級への巡回相談等を実習します。その中で、具体的かつ有効な支援方法を開発、検証します。



また、教科指導以外の教育活動（学級経営、進路指導、教育相談等）を実習します。児童生徒の状態を把握し、その課題解決を目指した具体かつ有効な支援方法を開発、検証します。

≫ 教育実践研究テーマの例

学校マネジメント力開発プログラム

- 自己課題克服に向けて学び続ける若手教員育成の研究
- 校内における若手教員の人材育成を図るためのOJTの研究
- 高等学校各学科における総合的な探究の時間及び課題研究の校内体制に関する比較研究—普通高校・専門高校を対象とした指導上の共通点・相違点の実証的検討—

授業力開発プログラム

- 博物館との連携を通じた小学校第6学年社会科授業の実践的研究
- 小学校理科における自律的な学習者の育成：自己調整学習の理論に基づく授業プログラムの開発と評価
- 中学校英語読解授業における概要把握の強化について
- やり取りを中心とした話す力を育てる中学校英語授業の工夫

特別支援教育力開発プログラム

- 知的障害特別支援学校における自立活動の個別の指導計画の作成と活用に関する教員の協働モデルの構築

※プログラム名は、令和7年度までのものです。



修了生の動向

修了生インタビュー



釜石市立釜石東中学校 副校長 藤澤 俊介

岩手大学教職大学院を修了し、現在は釜石市立釜石東中学校の副校長として、充実した日々を過ごしております。現場では、問題の本質を多角的に捉える視点や、見通しを持った計画立案、手立ての言語化など、大学院での学びが確かな実践力となっていることを実感しています。とりわけ、事象を俯瞰しながら根拠を持って判断する姿勢は、副校長としての職務遂行において大きな支えとなっています。釜石東中は、東日本大震災からの復興の歩みの中で地域とともに歩んできた学校であり、地域の方々の温かな眼差しと協働の中で生徒が育っていく姿に、日々学ばされています。現場での実践に不安がありました。現在は「チーム釜石東中」の一員として、先生方や生徒、保護者、地域の皆様に支えられながら、学びを還元できる喜びを感じつつ、楽しくも全力で奮闘する毎日です。



滝沢市立滝沢中央小学校 主幹教諭 千葉 絵里香

4月から滝沢市立滝沢中央小学校に赴任いたしました。創立8年目の新しい校舎で、先生方や子どもたちと忙しくとも充実した日々を送っております。主幹教諭として、市内音楽会事務局長、スクールガード等地域連携窓口、学校開放事業、校内ICT、教育実習担当など多岐にわたる業務を担当しています。初めてのことで戸惑うことも多くありますが、大学院で学んだ学校マネジメントの考え方や危機管理の在り方は、現在の業務に生かされていると感じています。また、困難に直面した時は、周りの先生方に助けを求め、支えてもらいながらなんとか1か月を乗り切りました。今後は持ち前のコミュニケーション能力を生かして、先生方の困り感や悩みをキャッチし、先生方が働きやすい環境を整えていきたいと考えています。そのためにも私自身が学び続ける姿勢を持ち続けていきます。



沿岸南部教育事務所 指導主事 高橋 規真

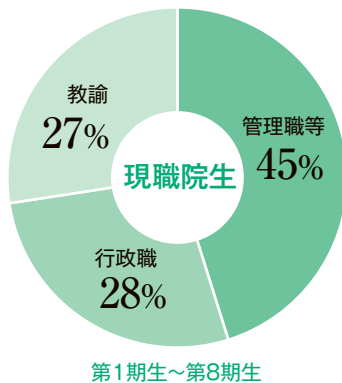
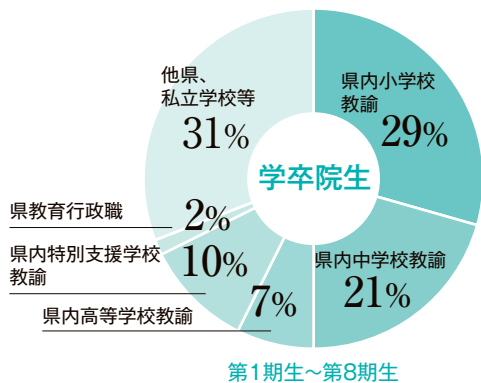
4月より岩手県沿岸南部教育事務所に勤務し、教育行政に携わっております。私は、主に算数・数学科の指導および生徒指導を担当しております。本年度は東日本大震災津波発生から15年という節目であり、「いわての復興教育」をより一層推進していきたいという思いを強くしています。教職大学院では、中学校数学の授業の在り方を探究する中で「人とのつながり」という大きな財産を得ることができました。また、様々な校種の院生との交流を通して得た知見と視点は、自身の教育観を深める契機となり、現在の業務につながっています。これからは常に「相手意識」を根底に置き、先生方の意を汲みながら、良き伴走者として共に岩手の教育を推進していく所存です。教職大学院での学びと感謝を胸に、「笑顔輝く子どもたちと教職員のために」日々の業務に全力を尽くしてまいります。



岩手県立金ヶ崎高等学校 教諭 伊藤 颯希

故郷である盛岡市から離れ、4月から新天地・金ヶ崎町、岩手県立金ヶ崎高等学校にて教員人生のスタートを切りました。金ヶ崎高校は金ヶ崎町唯一の県立高校であり、地域の方々の支えのもと、全校生徒一人ひとりが輝ける学校です。私は2学年の副担任として、学級経営や授業などを通して生徒たちとともに学ぶ日々を過ごしています。初めてのことで上手いかわないことが多い毎日ですが、大学院で学んだ理論に立ち返りながら実践を重ねることで改善を図ることができています。これは大学院で学ぶことの強みだと感じています。また、落ち込んだときにも乗り越えることができているのは、相談に乗ってくださる周囲の先生方と、素直で心温かい生徒たちの存在のおかげです。これからも人との出会いや関わりを大切にしながら、岩手の教育に貢献できるよう精進してまいります。

修了生進路 (令和8年4月現在)



学卒院生

第9期生

- 盛岡市立山岸小学校教諭
- 一関市立舞川小学校教諭
- 二戸市立福岡中学校教諭
- 岩手県立金ヶ崎高等学校教諭
- 岩手県立久慈拓陽支援学校教諭
- 岩手県立盛岡ひがし支援学校教諭

現職院生

第9期生

- 八幡平市立大更小学校副校長
- 釜石市立釜石東中学校副校長
- 岩手県立久慈拓陽支援学校副校長
- 盛岡市立仙北小学校主幹教諭
- 滝沢市立滝沢中央小学校主幹教諭
- 盛岡市立河南中学校教諭
- 沿岸南部教育事務所指導主事
- 岩手県教育委員会教職員課経営指導主事

在籍者数

(令和8年4月現在)

入学年度	プログラム	学卒院生	現職院生	合計
令和7年度	学校マネジメント力開発プログラム	3	3	3
	授業力開発プログラム	4	4	8
	特別支援教育力開発プログラム	1	1	2
	小計	5	8	13
令和8年度	学校マネジメント力開発・DX.Eプログラム	3	3	3
	授業力開発・DX.Eプログラム	8	4	12
	特別支援教育力開発・DX.Eプログラム	1	1	2
	小計	9	8	17
合計		14	16	30

研究科専任教員

(令和8年4月現在)

研究者教員	実務家教員	特任教員
中村 好則	紺野 好弘	奥田 昌夫
佐々木 全	菅野 亨	小野寺 哲男
福島 正行	須川 和紀	佐藤 友香
杉山 智風	三浦 隆	
田代 高章	近藤 健一	
川村めぐみ	大野 誠	
鈴木 恵太	和田 裕之	
船越 亮祐		

学修支援Q&A

Q1 どのような施設で学修するのですか？

教職大学院生専用の施設があります。この施設では、無線LANが完備され、いつでも活用できる電子黒板等のICT機器が配備されています。

Q2 教員採用試験での特例措置とは、どのようなものですか？

岩手県の教員採用試験に合格した上で、教職大学院に進学した学卒院生は、大学院修了までの期間、名簿記載期間を延長することができます(最大2年間)。なお、合格した出願区分の学校・教科等の専修免許を取得することが条件です。

Q3 学卒院生を対象とした独自の奨学金制度とは、どのようなものですか？

学卒院生を対象とした本教職大学院独自の貸与制度があります。貸与額は、月額3万円または5万円を選択できます。なお、修了後5年以内に、自身で作成した計画に従い返済します。

Q4 授業の特色にはどのようなことがありますか？

「理論と実践の融合」を目指し、理論面を研究者教員が、実践面を実務家教員がそれぞれ担当します。多くの授業は、研究者教員と実務家教員のチーム・ティーチングで、演習を重視して実施します。また、授業や専門実習では、現職院生と学卒院生が協働・交流し、学び合います。

Q5 どのような指導体制ですか？

各プログラムを専門とする研究者教員と、小・中・高・特支の校長等の実務経験のある実務家教員が中心となり指導します。また、これに加えて教育学部所属の20名をこえる研究者教員が学修をサポートします。

Q6 教育実践研究報告書とは何ですか？

院生個人が、学校現場に貢献する教育実践のテーマを定め、その実践を理論的に検討し、内容をまとめたものが教育実践研究報告書です。その内容に応じて、研究者教員と実務家教員がチームでサポートします。

Q7 学卒院生が修了後に教員になったとき、初任者研修はどうなりますか？

岩手県内の公立学校では、教職大学院での学修内容が考慮されるため、校内の初任者研修150時間程度が、75時間程度に軽減されます。

Q8 学卒院生が修了後に教員になったとき、初任給はどうなりますか？

「教職修士(専門職)」に対する優遇がなされています。具体的には、岩手県採用の初任給は、大学卒が280,560円ですが、大学院(修士)修了は、297,990円です。(令和9年度岩手県公立学校教員採用候補者選考試験実施要項による)

Q9 修了後、教職大学院とのかかわりはありますか？

教職大学院の同窓会があり、親睦を深めたり実践研究を交流したりします。また、教職大学院と連携・協働して、教育実践研究や職務に取り組む修了生もいます。

教職大学院棟



交通案内(盛岡駅から)

■バス利用

岩手県交通バス

- ・ 駅上田線 松園バスターミナル行き
- ・ 駅桜台団地線 桜台団地行き
- 乗車-「盛岡駅前東口バスターミナル11番線」
- 下車-「岩手大学前」

■タクシー利用 盛岡駅から約2km 約10分

■徒歩 盛岡駅から約25分



岩手大学 教職大学院



〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号
TEL.019-621-6840 FAX.019-621-6841
E-mail emaster@iwate-u.ac.jp
URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学 教育学部

TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edujim@iwate-u.ac.jp



この冊子は環境に配慮した用紙を使用しています。